

放送日 平成30年10月1日（月）
担当者 子ども家庭課 印牧 詩織

おはようございます。子ども家庭課の印牧です。

今日から10月、下半期の始まりです。気がつけば平成30年も残り3か月となり、子ども家庭課で担当している保育園の新年度の準備をする時期となりました。保育園への入園を希望されるお子さんは、0歳から2歳の低年齢児で年々増加しています。共働き家庭が増え、忙しい生活の中、子どもの「食」についても、どこでも、好きな物を比較的容易に「食べる」ことができる今、「利便性」と引き替えに、日本の伝統的な食文化の継承や食を通じた経験が少なくなってきました。保育園では、季節や行事にあった食事や、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつ、食事のマナーを日々の保育の中で伝えていきます。また、色々な食材に触れる経験、野菜の栽培、収穫体験など、子どもが食に興味をもてる様々な食育活動をとおして、食の楽しさ、大切さを伝えていきます。先日、子どもたちが栽培、収穫した野菜で子どもたちと一緒にカレーライスをつくりました。野菜を切る真剣な表情、調理し、出来上がるのをじっと待つ様子や、出来上がったカレーライスをもりもり食べ、楽しげに何度もおかわりして食べている姿はとても頼もしく、かわいらしかったです。料理作りは、子どもの好奇心を刺激する発見や驚きがあり、食への関心がより深まるよい機会となります。これからも色々な経験をとおして、食べ物大切にする気持ちや、作ってくれた人への感謝の気持ちなど、心を育くむ食育の機会を考えていきたいと思っております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月2日（火）

担当者 子ども発達支援センター 播磨 恵子

おはようございます。こども発達支援センターの播磨です。

今日は、心の発達について話をします。発達ということばは子どもによく使うことばですが、子どもに限らず大人も発達するという話です。

私の祖母は今年100歳になりました。実家の床の間には銀杯が飾られています。できるだけ実家に足を運び、祖母の若い頃の話をお聴いたり、YouTubeで好きな民謡と一緒に見たり、彼女が笑顔で話す様子に寄り添うようにしています。彼女は半年前の骨折から自分で歩くことも難しくなりましたが、今の状態をそのまま受け止め、「三度のご飯が食べられることは本当にありがたい。」と今の生活を満足し、感謝していると言います。老いを認めたくない中年の私にはまだわからない心理ですが、このようすは「老年的超越」といって心の発達の一つとされています。

100歳の彼女が話す内容の多くは、家族・友人・近所のひととの思い出です。人と関わる中で、彼女は多くの経験を積み感情を動かし、心を発達させてきました。

私の部署では発達が気になるお子さんと保護者様へ支援をしています。子どもの発達を促す基本は、人との信頼関係を築くこと、言われています。人によって関わり方や表現の仕方は違いますが、信頼して笑い合える関係を築くことは、子どもでも大人でもとても大切であると仕事を通じても感じています。

人は一生、発達し続けます。それは人との関わりの中で育まれます。これからも市民や家族、友人、そして職員との関わりを大切にしたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月3日(水)

担当者 子ども発達支援センター 高屋 健一郎

おはようございます。こども発達支援センターの高屋です。職名は事務吏員兼指導員ですが、資格は言語聴覚士、英語では Speech-Language-Hearing Therapist 略して ST と呼ばれております。あまり皆さんにはなじみのない資格かと思いますが、「聞くこと」や「話すこと」のコミュニケーション、あるいは「食べること」「飲むこと」など摂食や嚥下に障害のある乳児から高齢者の方々に評価や指導を行う専門職です。こども発達支援センターの ST は、子どもの指導を担当しており、難聴といった耳の聞こえの問題や、ことばをうまく話せない、どもってしまうといった言語発達などの問題に当たり、保護者の方の相談に応じ、また幼稚園や保育園など地域の関係機関の支援にも出向き、対応しております。

今年の5月に亡くなられた歌手の西城秀樹さんは、脳梗塞により、呂律が回りにくく、発音しづらい障害が残りましたが、懸命な ST とのリハビリによってコンサートができるほどまでに回復しました。

センターでの子どもへの発達支援で心がけていることは、そのようなきついリハビリではなく、楽しく遊んでいるうちにいつの間にかよくなっていること、その子なりに育つこと、少しでも生活しやすくすることを支援することです。またわが子を心配し、育児に悩める保護者の方に対し、ホスピタリティの気持ちを持って共に考え、希望を処方できるよう、この子を育ててよかったとっていただけるようにすることです。

今後も関係機関の方々と協力しながら、日々お子さんとその家族に寄り添い、北広島で暮らせてよかったとっていただけるようにこれからも業務に励んでいきます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月4日(木)
担当者 すみれ保育園 砂金 智美

おはようございます。子育て支援部すみれ保育園主任保育士の砂金です。

今年の1月、朝のスピーチで「ありがとう」の言葉は、
元気になる褒め言葉だと、お話をさせていただきました。

先日、テレビで「ありがとう。の反対語は？」と問いかけていました。「え？何だろう？迷惑？」などと思ったのですが、その答えは「あたりまえ」でした。確かに、あたりまえだから、ありがとうとは思わないし、まして言葉に出すことはないか。と感じました。

震災から1ヶ月が経とうとしています。震災3日目に大曲の避難所で、被災された方達を訪問看護施設が提供してくださったお風呂に車で送迎するお手伝いをさせてもらいました。車中で、地震の話、家の話などいろいろお話をした中で、何度も「ありがとう」と言われました。身内以外の方を車に乗せることでの緊張感や疲れが、「ありがとう」の言葉で軽減したことを覚えています。ですが、私は「スッキリされて良かったですね。」と、通り一遍の言葉しか言うことができませんでした。日頃、子どもの思いに寄り添うことを思いながら仕事をしているのですが、元気になれるような言葉が思い浮かびませんでした。今まで、あたりまえだったことが、あたりまえではなくなったときに、どう行動し、心に寄り添っていくのか。1ヶ月経つ今でも答えは出ていませんが、考えることは、続けていこうと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月5日（金）
担当者 すずらん保育園 開地 美穂子

おはようございます。子育て支援部すずらん保育園の開地美穂子です。

9月中旬に北広島市保育士研修会が開催され、以前から話を聞いてみたかった先生を、お招きすることができました。

講演の中で印象に残った言葉があります。「人はさまざまな能力があり、ひとりひとり違うことで社会は成り立っている」ということです。保育園は、保育士、調理人、管理人がそれぞれの役割を担っています。日々頑張っていることを労い、一人ひとりの個性や良いところを認め合うことが必要だと感じました。

子どもに対しては、一方的な指示や命令は脳が育たないようで、厳しい叱りや人格否定は脳の発達を妨げるそうです。大人の場合も同様に、相手には届きにくく行動を変えることは難しく、叱るよりほめる方が効果的だということです。大人もほめられると嬉しく、やる気につながりますよね。

業務が忙しくなると、気持ちの余裕がなくなりますが、子どもたちから「おしごと、がんばってねー」と声をかけられると励みになり頑張る力が沸いてきます。子どもたちを見習って、肯定的な声かけや態度、笑顔で対応するように心がけていきたいと思います。そして職員とのコミュニケーションをとりながら、助け合い、雰囲気の良い職場環境を作っていきたいものです。

研修は日頃の保育、環境を見直すことができ大変勉強になり、今後もできる限り研修に参加して、学び続けていき、現場で活かしていきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月9日（火）

担当者 地域子育て支援センター 土居 恵美

おはようございます。地域子育て支援センターあいあい主任保育士の土居恵美です。今日は、震災後の話をさせていただきます。1つは、地震当日、あいあいでは、停電や余震の心配もあり、休館しましたが、翌日から通常通り開館しました。利用者から「今日あいあいは、開いてますか？」という問い合わせも数件あり、来館されたお母さん方からは「家にいるのが不安だった」「開いていて良かった」などの声が聞かれました。不安を感じる親子が少しでもあいあいに来て、他の方たちと話をすることで、安心できたのなら良かったと思う反面、「余震がくるかもしれない」「停電で信号が付いていない」という状況であいあいを開けたのはよかったのか？という思いもあり、判断の難しさを感じました。

先日、子育て支援連携会議に参加し、他市町村の災害対応の話を聞きました。自衛隊員の多い千歳市では、父親は地震後、出勤して帰れない状況で、残された母親が不安を抱えていて、センターを開けたことで安心できた方たちが多くいたそうです。また、会議の中で、センターの職員が避難所へ出向くことで、不安を抱える親子の支援ができるのではないかという意見も出ていました。

災害時に私たち子育て支援センターに関わる職員が、どのようなことをしていけるのか、何が必要なのか、二度と起こって欲しくない災害ですが、次に備えて地域に寄り添った支援は何かを考えていけたらと思いました。

もう一つ、震災後我が家に「ぼんこ」という犬がやってきました。避難者が飼っていた犬で、飼い主の方が施設に入ってしまう行き場のなくなってしまった老犬を一時的に預かった時の話です。この話を聞いて、近所の子が老犬に会いに来てくれたり、散歩に連れて行ってくれたりもしました。また、同僚のご両親が事情を知り、放っておけないと飼ってくれることになりました。不安な震災でもありましたが、ネット社会の現代、SNS でのつながりが多い中で、人とのつながりの温かさを実感することができた「ぼんこ」との1週間でした。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月10日(水)

担当者 水道施設課 山田 直昌

おはようございます。水道部水道施設課の山田です。

皆さん、『花の建設、涙の保全』という言葉聞いたことがあるでしょうか。これは、新しく作るものは注目もされ喜ばれる花形であるが、その一方、保全という維持管理は地味な仕事であるという意味の言葉です。

そして、私の担当する仕事は水道の維持管理を行うことです。私の仕事は地味な仕事なのでしょうか。

本日は9月6日の北海道胆振東部地震における災害対応を通して感じたことについてお話したいと思います。

9月6日午前3時7分に発生した地震は、北広島市においては震度5弱を観測し、いわゆる「ブラックアウト」により北海道全体が停電状態となりました。

北広島市には水道水を溜めるための配水池が7箇所あり、そのうち4箇所の配水池には水道水を供給するためのポンプ設備があります。このポンプ設備が停止してしまうと、その地区には水道水を供給することができなくなり、断水が発生してしまいます。そのため万が一の停電に備え、これらの配水池には自家発電機が設置されています。

今回の停電発生時、ポンプ設備のある配水池で自家発電機の運転により水道水の供給を継続し、断水することなくライフラインとしての水道を守ることができました。

万が一の時のための設備である自家発電機が予定通りに運転したことは、当たり前のことではありますが、この当たり前のためには日常の点検や定期的な燃料の入れ替え、必要な部品の交換等の維持管理が必要です。今回の災害対応を通してこのような維持管理の重要性を再認識することができました。

今の日本では、地震や台風などによる災害が毎年各地で発生しています。これからもライフラインである水道を守るため、水道の維持管理という仕事に責任を持って取り組んでいきたいと思えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月11日(木)

担当者 社会教育課 大西 岳

おはようございます。教育委員会社会教育課体育担当主査の大西です。体育担当では、30kmロードレースをはじめとした各種体育事業の他、スポーツ振興に特化した「スポーツ振興計画」の策定に向けた準備等を行っております。

本日は、数あるスポーツ種目の中、私の趣味がゴルフという理由で、ゴルフ銀座として有名な北広島市のゴルフ事情について簡単にご紹介したいと思います。

ご存じの通り、市内には8つのゴルフ場、4つのゴルフ練習場があり、年間約40万人がゴルフ場を利用、約2億円のゴルフ場利用税が入る他、meijiカップ、ANAオープンなどの2つのBIGトーナメントが開かれ、トーナメントコースのゴルフ場は全国的にも知名度があります。

忘れてならないのは、酒井千絵プロ、小祝さくらプロの2人の女子プロゴルファーが誕生したのがここ北広島市であり、meijiカップでは、小祝プロが優勝争いに食い込む活躍をみせたことは記憶に新しいと思います。さて、プロ選手、トップアスリートを生み出す環境とはなんのでしょうか？人口約3万人の十勝の幕別町は、陸上の福島選手や平昌オリンピックでメダリストになった高木姉妹など5人のオリンピックを輩出し、スポーツを通じたまちづくりの強化を図っているそうです。北広島市は身近に8つのゴルフ場がありながら、プロ選手が2人。市内のゴルフ人口は、最新の市民アンケート調査で約5千人（推計）となっており、ゴルフ人口は決して多くない状況です。ゴルフ人口の拡大がプロ選手輩出の一つの鍵になっていると思われ、スポーツ振興計画においてもアスリート環境の整備をしっかりとサポートしていきたいです。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいadak大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月12日（金）

担当者 消防本部総務課 富島 賢治

おはようございます。消防本部総務課の富島です。

私は消防士を拝命して23年になりますが、消防士であると言う事はどのようなことなのかを常に意識し、体力や筋力の維持、向上に日々努めています。

日常業務や現場活動においても専門的な知識や技術の習得が大切なのは当然ですが、人の命を守るという事において、普通の人より体力や筋力があって当たり前。助けに来た者が頼りなく見えたり、不安に思われたりしないよう「あの時、あともう一步、あともう一回手を、足を出す体力が残っていたら」と後悔しないように、万策がつかなくても、自分の身一つでその場を乗り切る最終兵器を作り上げる事を目標にしています。と言いながらも、年を重ね、家族ができ、仕事の責任も増える中、その目標にあてる時間が取れなくなってきてしまいます。

そこで、ここ数年行っているのが自分なりの朝活です。「早起きは三文の徳」と昔から言われる通り、朝の時間は使い方で「黄金時間」になります。脳が睡眠中に整理されフレッシュな状態で集中力が高まる朝は、仕事、勉強、家事、運動、趣味などやりたいと思いつながらできなかった事をする時間に最適と言われています。朝の運動は気持ちが良いものです。運動によって脳も活性化されると言われます。仕事においても集中力や判断力の向上に繋がり、規則正しい生活を送ることができ、肥満や生活習慣病の予防にもなること間違いなしです。

私は、何時発生するかわからない災害に対応するため、朝の運動により就業開始時には完全に体を起こし、市民が安心して身を委ねられる強靱な肉体を持った消防士を目指します。「健全な精神は健全な肉体に宿る」です。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月15日（月）

担当者 消防2課 板林 克典

おはようございます。消防署消防2課の板林克典です。私の救助担当は、災害現場や事故現場での人命救助を主な業務としています。その中で私は3つの目標に重点をおいて勤務しています。

ひとつ目は「人命救助技術の向上」です。近年の救助出動は増加傾向にありますが、出動要請内容も過去に比べて変化してきており、出動時における実活動は決して多くないのが実情です。それにともない実経験を積む機会も少ない状態です。実経験が少なくても実現場は緊急事態のため「出来ない」「知らない」「少し待つて」等は決して通用しません。これを補うために基礎的訓練を含め、あらゆる災害を想定した訓練を実施し、救助技術の向上に努めることを日々心がけています。

2つ目は「現場活動に必要な体力づくり」です。災害現場等では十数キロになる装備を付けての活動や長時間に及ぶ場合、または高所や低所での活動もあります。その状況に柔軟に対応できる体力が必要と感じ、1年間を通して体力維持のトレーニングを行っています。

3つ目は「安全管理の徹底」です。そして安全は何よりも優先されるものだと思います。隊長の立場として災害現場はもとより、訓練時や日常の勤務における些細な行動ミスや誤りにつながる原因の把握において、事前の事故を防止するよう心がけています。これからもこの先も事故の徹底防止に努めようと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月16日(火)

担当者 救急指令課 天野 英樹

おはようございます。消防署救急指令課の天野です。

今年度4月から、救急指令課で指令を担当しています。

指令担当は消防本部3階の通信指令室で勤務をし、119番の受付が1番の仕事になります。

市民からの通報を受け、消防隊、救急隊を通報者のところに1分、1秒でも早く向かわせるため心がけています。そのため出動場所の特定を早くするようにしています。

119番受報時、「自分の家が燃えている。や大切な家族が倒れた。」など、緊急性が高い場合は通報者があせったり、興奮していたりなかなか出動場所を特定できません。落ち着いてもらい、まず出動場所を聴取します。

場所がわからないと出動できませんし、通報者は消防隊、救急隊が到着するまでの間、すごく長く感じるそうです。

指令台でも受報時に出動する場所をいち早く確定できるように、毎月、市役所の関連部局と連携させていただいて、市民の転居、転入、世帯主変更等を更新して最新の状態にしています。

また、高齢者支援課、福祉課とも連携させていただいて災害弱者と呼ばれる方からの要請にもすばやく対応できるようにしています。

迅速に出動指令を吹鳴できるように心がけています。

最近、携帯電話からの119番通報も多くなっています。電波状態で札幌市や恵庭市の消防指令室につながる場合がありますので、通報する場合、住所は北広島市から伝えるようにしてください。他市で受報した場合は転送で当市の消防指令室に回してもらえます。職員の皆様には、覚えておいていただきたいです。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月17日(水)
担当者 消防署西の里出張所 伊名野 昌人

おはようございます。 消防署西の里出張所査察担当主査の伊名野です。

消防署西の里出張所は平成5年12月に開設しました。

私は当時開設メンバーとして3年4ヶ月勤務をしていましたが、今年の4月に21年ぶりに配属されました。

消防署西の里出張所は消防車1台3～4名が勤務しており、ご存じの方も多いたと思いますが救急車は配備されていません。

私は西の里地区に住んでいます。 PTA役員や少年野球のコーチをしていることもあり、住民の方と接する機会が多く相談や質問をされる事がよくあります。

その主な内容が西の里地区には救急車がないので来るまでに時間がかかるから心配だ！というものです。

当消防では全ての救急出動ではありませんが、命に関わるような緊急を要する事案が発生した際、西の里出張所の消防車も同時に出動しますので他の地区よりも時間がかかるという事はありません。

救急車が到着するまで傷病者の観察や処置等を行い、少しでも早く病院へ搬送するための活動を行っています。

そのため、ほとんどが救急・救助資格者であり、どのような出動にも対応できる経験豊富な職員が勤務しています。 この事について広報などは行っていません、ご家族や知人が住んでいる方がいらっしゃいましたら、西の里地区は安心して住める街だという事をお伝え頂けたらと思います。

これからも市職員が一丸となり市民の方々が安心して住めるよう努力していきましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月18日(木)
担当者 ボールパーク施設課 織田 雅人

おはようございます。ボールパーク施設課の織田です。

先月発生した大型台風と大地震から1ヵ月以上経ちました。地震により、市内でも被災した地域があり、道内全体では大規模な法面崩壊により、残念ながら、多くの方が亡くなりました。私が地震で目覚めたあの時、被災地では長い期間と努力で築き上げてきたことが、一瞬でなくなってしまうという自然の猛威を目の当たりにすることとなりました。私たちはこのことを考え、次につなげていかなければなりません。

土木は自然との関わりが深いというより、自然への対応が全てです。工事中を含め、暴風雨への対応、橋などの構造物に対する耐震など、様々です。土木技術も日々、進化しておりますが、自然の猛威はさらに上をいくという繰り返しです。

以前、先輩から「土木」は「経験工学」と教わったことがあります。どのような仕事も同じですが「知っている」ではなく「やったことがある」という経験こそが武器となります。特に大先輩と現場を歩くと実感します。現場を見る目や感覚、気づくということ、対応など、本で学ぶことができない部分、その能力に私との差を感じます。お前もその内わかるようになってと言われた日から時は経ちましたが、未だ身につけていないことが残念です。先輩と現場を歩くという経験を大切に「全て吸収」「全て盗む」の精神で過ごしていきたいと思えます。

今できることを全て経験する。経験を現場に生かす。より良いもの、誰よりも良いものを造っていくという思いを持ち、微力ではありますが、地域基盤の強靱化を実現する一員となれるよう、日々、努力いたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月19日（金）

担当者 商工業振興課 宮川 敬

おはようございます。商工業振興課の宮川です。

私は今年7月、商工業振興課に異動となり、3ヶ月半が経過したところです。

初めて体験することが多く、勉強の毎日ですが、一刻も早く一人立ちできるよう精進していきたいと考えています。

さて、本日は、私が携わっている業務の1つとして、商工業振興課が管理する施設である「大曲ふれあいプラザ」について紹介をしたいと思います。

大曲ふれあいプラザは、地域経済の振興並びに市民の生活文化の向上及び福祉の増進に資するため、平成8年2月1日に開館した、大曲工業団地、羊ヶ丘通沿いに位置する施設です。

施設内にはイベントや会議に使用できる会議室・研修室が合計4部屋あり、工業団地に位置することから市内の立地企業が会議や集会などに使用するのはもちろんですが、ダンスサークルや空手の団体など、市民の方も多く利用されています。

私も今年3月まで大曲に住んでおり、以前、小学校の同級生が集まる場として使用したこともあります。

その他、1階のロビーには市の工業団地についての情報コーナーがあり、市の工業の発展の歴史を学ぼうえでも非常に重要な施設となっています。

他の公共施設と比べると少し距離が遠い、と思われる方がいるかもしれませんが、施設の内容としては他の施設と比べて劣るところは全くありませんので、皆さんも是非、会議やイベントで使用してみたいはいかがでしょうか。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月22日（月）

担当者 企画課 村上 洋輔

おはようございます。企画課の村上です。本日は、私の担当している公共交通の中の路線バスについてお話ししたいと思います。私自身、今年度の4月から公共交通を担当していますが、それ以前については、バスは走っていて当然のもの、車がある自分にはどこか他人事に捉えてしまっているところがありました。

しかしながら、自家用車の普及、人口減少や人口構成の変化によってバス利用者は減少しており、このまま減少を続けていけば廃止になる路線も出てくるかもしれないというのがバスの現状でした。普段の生活でバスに乗っていない方からすれば大きな影響は感じられませんが、車を運転できない学生や高齢者にとっては生活に欠かせない交通手段となっています。また、今は利用がなくても高齢になり車の運転ができなくなったとき、自分自身にとってもバスが必要不可欠な交通手段になるかもしれません。バスに乗ることはただ単に移動することだけではなく、交通渋滞の緩和やCO2削減などのメリットも挙げられます。このようなことから公共交通を維持することは重要であり、利用者の減少を食い止めることが不可欠です。

しかし、そんなことを言っておきながら、私自身かなり車に依存した生活になっているのが現状です。今後は、より利便性が高く持続可能な公共交通の整備に努めて行くとともに自分自身の生活においても無理のない範囲でバスを利用していきたいと思います。

大変恐縮ではありますが、こんなスピーチをしていた奴も居たなと思い出された際には、普段バスに乗らないという方も無理のない範囲で利用していただけると幸いに存じます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月23日（火）
担当者 政策広報課 山本 真伸

おはようございます。企画財政部政策広報課の山本です。

私は学生時代、IT系ベンチャー企業でアルバイトをしておりましたが、その時に教わった「80は100よりも0に近い」というお話を紹介したいと思います。普通に考えると、80は0よりも100に近い、と思う方が多いのではないのでしょうか。テストで80点取ったとしたら、もう少し頑張れば100点に届くことから、80は100に近いと感じるのが当然です。

しかし、このような場合、みなさんはどう感じるでしょうか。タクシーに乗って目的地に向かっていたら8割くらいの距離で降ろされた。あるいは、テレビを買ったらリモコンのボタンが8割くらいしか機能しなかった。あるいは、服を買ったら8割くらいしか縫製されていなかった。さて、この時のみなさんの満足度は、100と0、どちらに近いでしょうか。おそらく0に近いと感じた方のほうが多いのではないのでしょうか。

ビジネスの世界では期待どおりの結果で当たり前。それがわずかでも及ばなければゼロ評価、マイナス評価となります。80点の出来でよくできたと思うのは学生だけ、ビジネスの世界では0点と一緒にだよ、と当時の上司から教わりました。当時の私には「脅かされているのかな？」という気持ちもありましたが、今になって思えば学生にビジネスの常識を教えていただけと理解できます。

ちなみに、この企業で教わった話は他にもあり、「がんばったけどできませんでした、は断るより悪い」というエピソードもありますが、これはまたの機会にお話ししたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月24日(水)
担当者 政策広報課 京谷 夏奈

おはようございます。政策広報課広報担当の京谷です。

皆さんは月に2回発行している「広報北広島」を毎月ご覧いただいていますか。

広報担当では、市民の皆さんにとって分かりやすく、必要とされる広報を目指し、平成28年度に「市の広報活動に関するアンケート調査」を実施しました。調査の結果、広報紙を読むと回答した方は約91%でした。また、そのうちの約74%の方が、全体的に記事に目を通すと回答してくださいました。多くの皆さんに関心を持っていただいていることを嬉しく思う一方で、そもそも広報紙を全く読まない、広報紙のことを知らないという回答も少数ながらありました。

広報担当では、業務の参考にするため、他市町村の広報紙や一般企業の広報紙などに目を通す機会があります。自分に全く関係のない自治体の広報紙でも、写真やイラスト、レイアウトが印象的であればじっくり読み込む一方で、字ばかりで興味が湧かず、読み飛ばしてしまう広報紙もあります。内容はもちろん重要ですが、ページを開いたときにちょっと読んでみようかな、と思ってもらえるような工夫が大切なのだと思います。

どんなに素晴らしい政策を行っていても、それを市民の皆さんが知らなければ意味はありません。より多くの皆さんに市の取り組みやまちの魅力を知っていただくことで、北広島により愛着を持ってもらえるような紙面づくりを目指していきたいです。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月25日(木)
担当者 財政課 榎本 一輝

おはようございます。財政課の榎本一輝です。

私は、丸メガネにベストという格好のせいかスポーツをしないと思われていることが多いですが、スポーツをすることが好きで、自転車やスキー、水泳など様々なスポーツを行ってきました。そこで、本日はスポーツの練習中に意識していることについてお話をしたいと思います。

スポーツは、今と同じことを行っても上達はしません。上達のためには、常に新しいことにチャレンジする必要がある、新しいことにチャレンジするときは、なぜそれを行おうかと思ったのかをよく考えてから行うようにしています。例えば、練習会に参加すると、ここをこうしたほうが良いよとアドバイスをいただくことがあります。なぜそうしたほうが良いのか、またアドバイスと反対のことをしたらどうなるのかを考え、あえてアドバイスとは逆のことを行ってみることもあります。アドバイスと逆のことを行うことで、不都合が起きる理由がわかり、だからそのようなアドバイスをくれたのかと理解することができます。何も考えず、言われたことをただ行うだけでは上達しません。

これは、仕事でも同じだと思っています。当たり前のことですが、ただ言われた通りに仕事をするのではなく、新しいことにチャレンジをし、このような場合はこうなるのでこうしたということを常に意識していきたいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月26日（金）
担当者 都市計画課 大西 康文

おはようございます。都市計画課の大西です。

私が平成15年度の職員採用資格試験を受験する際、北広島市のホームページを検索し、都市計画マスタープラン策定のため、市民とともにワークショップを行っていることを知りました。その時交通工学の研究室に所属し、隣の都市計画の研究室とも交流があったことから、面接の際に都市計画に関わる業務に携わりたいと話したのを覚えています。

念願叶い都市計画の担当となって最近よく感じるのが、他の自治体の担当職員との関わりが深いということです。都市計画の担当は、土木・建築職の職員が多いのですが、企画部や総合政策部などにはその職員数は少なく、都市計画には関係の無い建設部局の話から、都市計画法の制限の中で、どの様にまちづくりを進めていくかなどのお話をよくします。その際に、私がボールパーク推進室を兼務していることもあり「ボールパークを実現するため、北広島の都市計画はどうするの」とよく聞かれます。ボールパークを実現するためには、都市計画の変更が必ず必要であるため、関係機関の担当者と様々な協議、打合せを行い一歩ずつ前に進めていきたいと思えます。

最後になりますが、私が入庁するきっかけとなった北広島市都市計画マスタープランが平成32年を目標年次としており、来年度から次期都市計画マスタープランの策定作業が本格的に始まります。その前段階として、今年度現在の計画の点検作業を行います。近日中に都市計画課から担当する皆様へ照会をかけますので、ご協力の程よろしく願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月29日（月）
担当者 都市計画課 加我 浩行

おはようございます。都市計画課開発調整担当スタッフの加我浩行です。

突然ですが、平成28年度から始まり、3年目を迎えた朝のスピーチ、皆さんは心に残ったスピーチはありますか。

私は、千葉県松戸市の「すぐやる課」のスピーチがとても印象的でした。そのスピーチの内容は、松戸市では、市民の声に対して、直ちに行動を起こす部署として「すぐやる課」という課があり、その部署では、「市役所とは市民に役立つ所、市民にとって役に立つ人がいる所」というモットーのもと、すぐ出動してすぐに処理し、市民の好評を得た、といった内容でした。

どの部署も同じかと思いますが、都市計画課でも窓口や電話で実に様々なお問い合わせをいただきます。そういった場合に、すぐに動き出し、迅速に処理することで、問題が大きくなる前に対処できる、ということを何度も実感しました。また、お客様に笑顔で「ありがとう」と感謝の言葉をいただくことが多々ありました。こういった積み重ねが市民の満足度につながり、北広島市に住んで良かった、と思う一因になると思います。

周りの皆さんは当たり前のように実行していることですが、周りに負けないように自分から動き出し、すぐやるように努め、「北広島に住んでよかった」と思われるように、「すぐやる課」の一員でありたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月30日(火)
担当者 総務課 加藤 文博

おはようございます。総務課の加藤です。

私は、総務課で議会との調整や庁舎の管理を行っています。また、今年は通常業務に加え、8月3日に天皇皇后両陛下の行幸啓があり、職員の皆さんご協力、市民の皆さんの奉送迎のもと、何事もなくお迎えすることができました。

さて、新庁舎で業務を開始して1年半になろうとしています。以前の庁舎に比べて職務環境が良くなり、快適に職務に従事されているかと思います。

この庁舎では、来月11月から庁舎で使用する電力を新電力から供給を受けることとなります。電力の自由化は、平成12年からの特別高圧電力の自由化に始まり、平成17年に高圧電力、平成28年に低圧電力の自由化で、電力全てにおいて、北海道電力以外から電力の供給を受けることが可能となりました。

北広島市では、平成29年に市内の高圧電力を使用している36の施設で、ほくでんから新電力への電力切り替えを実施しているところです。その公共施設の中でも、庁舎は電力使用量が非常に多く、電力調達先の切り替えにより、経費の削減が期待されます。

現在、総務課では、低圧電力を使用する施設についての電力調達方針を策定しました。今後、各施設管理課向けの説明会を開催させていただき、施設管理課において電力調達先の切り替えを行っていただこうと考えていますので、よろしくお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年10月31日(水)
担当者 総務課 白水 美里

おはようございます。総務部総務課の白水美里です。

現在私は、総務課の法制担当として働いています。法制担当では、条例の審査などを行っており、1日のほとんどを文字とにらめっこして過ごしています。法令を正確に読み、わかりやすく正確な文章をつくるのが、市の信用にも関わってくるので、間違いのないよう、大量の情報を収集し、確認に確認を重ねます。正直なところ、まだ得意な分野とは言い難く、時々思考が停止しそうになります。

そんなときに喝を入れてくれるのが、大隈重信の「停滞は死滅である」という言葉です。常に変革を遂げていくことで成長し続けなければならないという意味が、大隈自身の人生からも読み取れます。社会がどんどん新しい方向に進んでいく中、市の職員の動きが停滞することで市の動きが停滞することのないよう、小さなことでも手を止める時間、立ち止まっている時間はないと、何としてでも頭を動かさなくてはと気合いが入ります。ひとりで足掻くのは苦しいと思いますが、上司や先輩方がサポートしてくださるこの職場で、若手職員が停滞して死滅している場合ではありません。

思うように進めないときもありますが、少しずつでも前日の自分を超えられるように、現状に満足することなく、足掻いて、経験を重ね、学び続けることで、北広島市がよりよい街へと前進していくための力になれるよう、そして、現在私が支えられているように、いつか誰かの前進を後押しできるような職員になれるよう、成長し続けていきたいと思っています。

気持ちのよい挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。